

技術・家庭科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・生活に必要な基礎的・基本的な技能を身に付けること	・生活や社会の中から課題を見つけ、適切かつ誠実に技術を工夫し創造すること

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手立て	手立ての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<p>ア 工具や調理道具についての簡単な知識は身に付いているが、適切な使用方法については身に付いていない。</p> <p>イ 小学校の図画工作や家庭科をとおして製作することには慣れ親しんでいるが、思考し課題を見発見する力には課題がある。</p>	<p>ア 演示により丁寧に指導し、教え合いにより学びを深め、実技テストで定着させる。</p> <p>イ 毎授業で授業内容の振り返りを行い、成果と課題を見つけさせ、次回の授業につなげる。</p>	・通年	
第2学年	<p>ア 技術分野では、外界環境に合わせて適切なタイミングでの追肥やかん水、収穫を行うことに課題が見られた。また、家庭分野では、ミシンの使い方に不慣れな生徒が多く、用具の正しい使用方法が身に付いていない生徒が多い。</p> <p>イ 課題を発見する力は身に付いたが、自ら課題を解決する能力については課題がある。</p>	<p>ア 演示を作業ごとに行うとともに、具体的な作業方法やポイントに関して ICT 機器を使用して丁寧に指導する。また、教え合いにより学びを深め、実技テストで定着させる。</p> <p>イ 自ら課題を解決できるようにするために、授業の中で考えさせる機会を多くするとともに、調べ学習を通して主体的に学習させる。</p>	・通年	
第3学年	<p>ア タブレット端末への関心は高いが、プログラミングに関する知識や技能を身に付けることに課題がある。</p> <p>イ 消費生活の分野については生徒自身、身近なこととして捉えにくいという課題がある。また、情報分野については課題を様々な側面から解決しようとする能力に課題がある。</p>	<p>ア ICT機器とプログラミング教材を活用して丁寧に指導するとともに、教え合いにより学びを深め、実技テストで定着させる。</p> <p>イ 消費生活の分野では、普段の生活に関係が深い実例を提示する機会を増やすことで、身の周りで起こり得る課題に対して自分で考え、判断し実行する力を身に付けさせる。また、情報分野ではプログラミングのデバッグを行うことで、課題について多面的に捉える機会を多くするとともに、協働学習の場面を設定し、主体的に学習させる。</p>	・通年	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1,2 年 ワークシートへの記述内容をロイロノートで提出させ、教員が添削するとともに、クラスでの意見共有などを行う。【重点:個別・協働】 3年 ライフイズテック、Swift playgrounds やロイロノート、ドキュメント、スプレッドシートといった様々なソフトウェアを使用して、1人1人が課題に取り組み、提出させることで、個々の理解に応じたアドバイスを行う。【重点:個別・協働】	・本時の目標を明示し、授業の見通しをもたせる。また、新たな単元の際に、単元を通して身に付けてほしい力や全体の学習の流れを説明し、生徒に見通しを持たせる。 ・前時の復習を授業の導入で行うことや小テストを定期的に行い、学習内容の定着を図る。また、授業後には振り返りを実施する。